



筑波大学
University of Tsukuba



筑波-UBC グローバルリーダーズプログラム ＜概要・研修効果・将来性＞ 2014-2015

SGH連絡会

2015年12月2日（水）筑波大学東京キャンパス
筑波大学附属高等学校・附属学校教育局

本プログラムの3つの特徴

- ①SGHプログラムとしての「課題解決型」研修の実施
- ②「渡航前研修」+「海外研修」+「帰国報告会」3ステップ連動

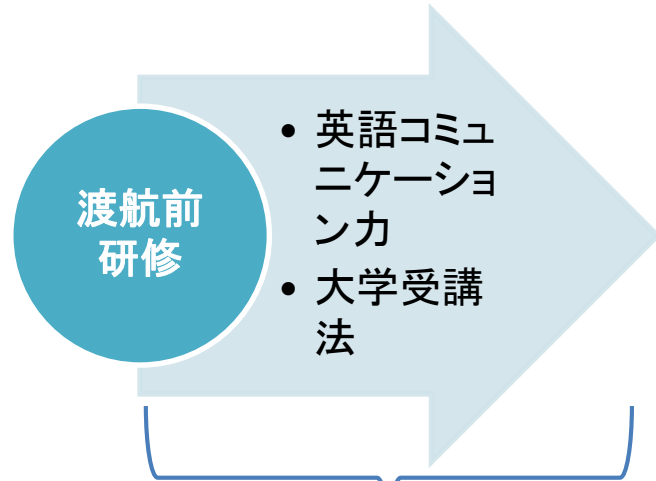


- ③研修前後における「英語コミュニケーション能力」(TOEFLiBT)、研究班が開発したグローバル意識・行動特性(グローバルマインドセット・コンピテンシー)尺度による研修効果測定

* University of British Columbia (Canada)

研修方法

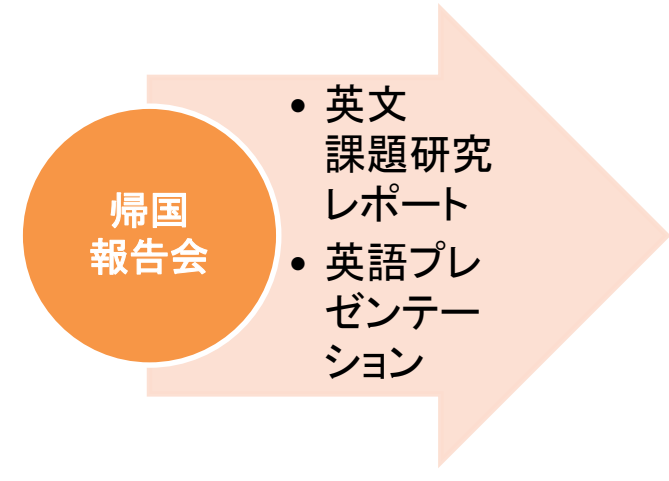
11月～7月



2週間(8月上旬)



帰国後2週間



グローバルマインドセット・コンピテンシー測定(研修前・後 計2回)

TOEFLiBT(研修前・後 計2回)

2014-2015年度 研修参加者

- 選抜：面接（附属高校・筑波大学教員）
- 対象：筑波大学附属高等学校生

2年生（女子10名、男子9名） 19名

3年生（女子3名、男子1名） 4名

合計 23名

渡航前研修(英語開講)

A. English Communication (Ms. Leslie James)

英語で読む、書く、聴く、話すの4技能のスキル向上を通した、海外研修受講に必要な英語コミュニケーション能力を育成

B. Action Learning (Prof. Hirohisa Nagai, Associate Prof. Caroline Tan)

シミュレーション、ロールプレイ、ケーススタディを通して、チームプロジェクトによる問題解決能力を育成

C. Strategic Learning (Associate Prof. Jean-Claude Maswana)

ディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成を英語で実行できる能力を育成

D. Introduction to PPDAC (Instructor Watalu Yamamoto)

関心あるトピックに関して、PPDAC(エビデンスにもとづく問題解決方法)を使い考え、議論する能力を育成

海外研修

- 期間: 2015年8月2日～15日(2週間)
- 場所: ブリティッシュコロンビア大学(カナダ・バンクーバーキャンパス)
- 講師: ブリティッシュコロンビア大学教授
- 講義内容: 大学教授が、高校生向けに学部の講義内容を提供する大学予科
- 開講科目(6科目)内、筑波大学SGHプログラムとの連携授業(2科目)

A. Environmental Science and the Prevention of Natural Disaster

自然災害(地震、火山、地崩れ、津波、嵐、気候変動等)はなぜ起こるのか、どのように観察、予測し、災害被害を最小限に抑えるのか学習する。

B. Politics, Economics and Diplomacy in a Global World

国際経済、政治、外交情勢について、実際の事例を取り上げながら分析し、解決の手法を探る。クラス内での討議やグループ活動を通して、自分の考えをアウトプットできるようにする。

- 受講生(132名): カナダ人高校生(58%)、筑波附属生(17%)、他留学生(25%)

UBC Life

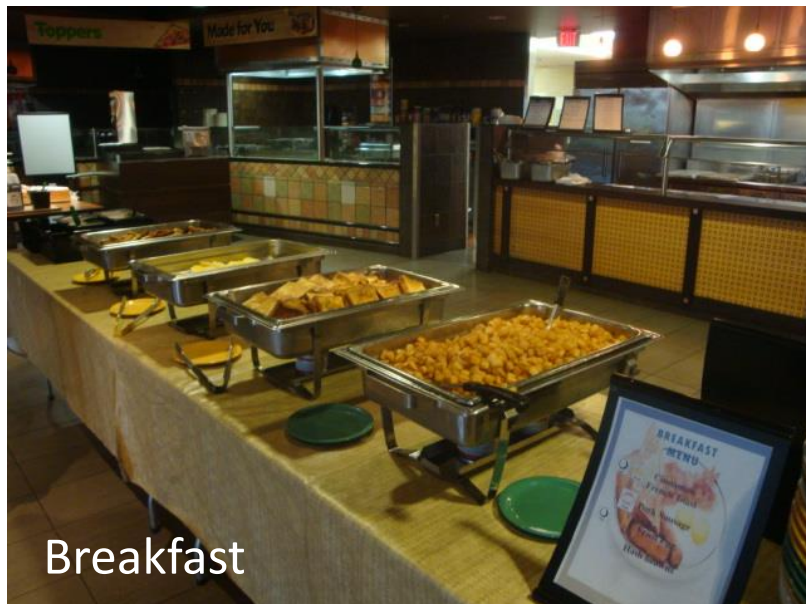
- Activity
- Excursion
- Dormitory
- Cafeteria etc.



Concert Hall



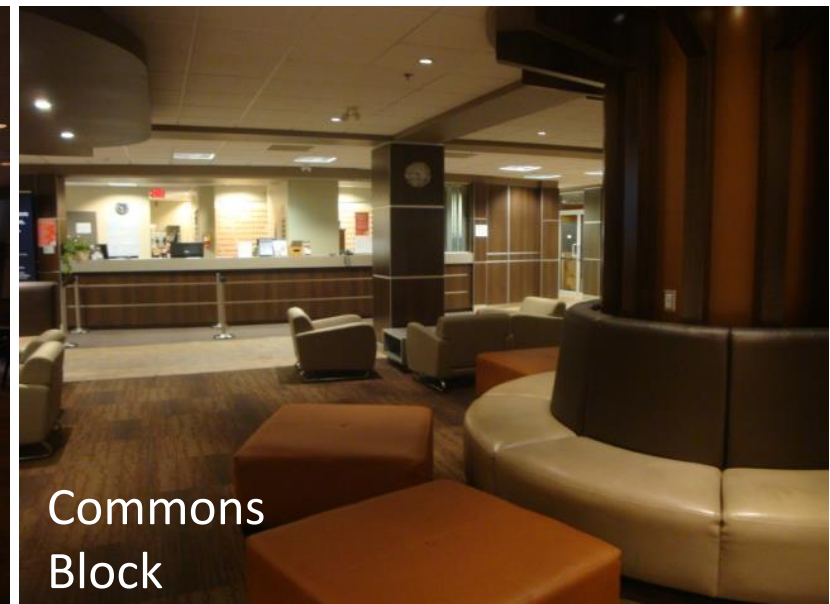
Beach



Breakfast



Cafeteria



Commons
Block

帰国報告会

A. 研究レポート提出

- 締切: 2015年8月31日 (UBCから帰国後約2週間後)
- 字数: 2000Words (英語)
- 内容: 派遣前の個人課題について、UBC研修を通して知識を深め、PPDACに基づいた調査、分析を通してレポートにまとめる。

B. プレゼンテーション

- 発表日: 2015年9月5日 (土)
- 場所: 筑波大学附属高校3教室
- 内容: 最終レポートの内容を英語で口頭発表する
- 時間配分: 発表10分、質疑応答5分
- 審査員: 大学教員2名

※公聴会形式により、保護者、生徒、教員等が出席(一部屋20名程度)



2015年9月5日(土)
筑波大学附属高等学校
筑波・UBC研修
最終報告会

研修効果測定(意識・行動特性)

- グローバルマインドセット

グローバル人材が、異文化環境で直面する問題の解決に向けて必要な視点、考え方の基盤(意識特性)

- グローバルリーダーシップ・コンピテンシー

異文化で直面したクリティカルインシデント(危機的状況)に対する解決方法の発揮(行動特性)

統計的に有意な向上が見られた項目
(6点尺度、n=23, $p<0.1$)

項 目	差分
外国で生活してみたい。	.304
自分の短所よりも長所に目を向けている。	.458
相手が意見を述べやすいように心がける。	.250
相手との協力関係を築くようにする。	.292
今回の出来事から、学んだことを振り返る。	.333

- サンプル数(n=23)が限られているため、有意差がある項目は限られているが、ほとんどの項目で意識・行動特性の向上が見られた。
- 知識よりも、自分自身や対人関係に関する項目での向上が高かった。

英語コミュニケーション研修効果測定(TOEFLiBT)

- 第一回(2014年10月)TOEFLiBT模擬版
 - 第二回(2015年 8月)TOEFLiBT正規版
- 平均点48.2点⇒71.5点
4技能すべてにおいて
スコアが有意に向上

TOEFLiBT (研修前後測定): 対応のあるサンプルのt検定 「4技能ともに、研修前後で1%有意水準で得点上昇が確認された。」

Paired Samples Statistics

		Mean	N	Std. Deviation	Std. Error Mean
Pair 1	Reading2	17.6818	22	5.76018	1.22807
	Reading1	9.8182	22	4.99177	1.06425
Pair 2	Listening2	17.2273	22	6.46553	1.37845
	Listening1	11.5000	22	6.63863	1.41536
Pair 3	Speaking2	17.7727	22	3.17628	.67718
	Speaking1	15.0909	22	2.59870	.55404
Pair 4	Writing2	18.8182	22	3.55416	.75775
	Writing1	11.7727	22	3.92710	.83726
Pair 5	Total2	71.5000	22	16.25320	3.46519
	Total1	48.1818	22	14.36807	3.06328

Paired Samples Test

		Paired Differences					t	df	Sig. (2-tailed)
		Mean	Std. Deviation	Std. Error Mean	95% Confidence Interval of the Difference				
					Lower	Upper			
Pair 1	Reading2 - Reading1	7.86364	5.28516	1.12680	5.52033	10.20694	6.979	21	.000
Pair 2	Listening2 - Listening1	5.72727	4.15396	.88563	3.88551	7.56904	6.467	21	.000
Pair 3	Speaking2 - Speaking1	2.68182	2.88488	.61506	1.40274	3.96090	4.360	21	.000
Pair 4	Writing2 - Writing1	7.04545	2.43931	.52006	5.96393	8.12698	13.547	21	.000
Pair 5	Total2 - Total1	23.31818	9.47873	2.02087	19.11555	27.52082	11.539	21	.000

研修生からのコメント

《良かった点》

- English Communicationのクラスがとても良かった。
 - Chromebookを使っでの授業は良かった。タイピングが速くなった。
 - UBCでの生活はとても楽しかった。Activityに参加すると、授業の異なる人とも友達になることができたので、それは良かった。
 - とても良い経験になったので、参加してよかった。
- 等

《改善点》

- 渡航前研修の開始が早すぎたので、渡航前研修は海外研修の直前に集中して実施するのが良いのでは？
 - 自分で選んだテーマの研究過程で迷うことがあるので、Office Hourなどを設定してもらえると嬉しい。
 - UBCで受講できる科目が増えると良い。
- 等

課題と解決（１）

【課題１：派遣前研修の期間】

派遣前研修は、2014年11月から2015年7月の9ヵ月間、平日の放課後に実施したため、高校生活との両立で生徒に負担がかかった。

【解決１】

2016年度からは、派遣前研修を2016年4月から7月の4ヵ月間に土曜日開講とし、生徒の利便を図るとともに集中力を高める。

課題と解決(2)

【課題2: 海外研修で受講可能な科目数】

2015年度は、筑波大学附属高校との連携授業として、2科目のみ派遣可能であったため、1クラス当たりの日本人生徒比率が高くなった。

【解決2】

- UBCとの交渉を通して、履修可能な科目数を拡大した。(2→12)
- 派遣期間を2期に分散した。(7月下旬、8月上旬)

課題と解決策(3)

【課題3: クローズドからオープンへ】

SGH幹事校管理機関として、筑波SGHプログラムとして開発された本研修をより多くの高校生が受講できるようにすることは、社会還元の一つであろう。

【解決3】

2014-2015年度は、筑波大学附属高等学校からのみ研修生を募ったが、2016年度からは、他SGH校からも参加者を公募する。

感想 1.

私は今年の夏にこの UBC 研修に参加しました。UBC での活動とともに、私が感じたことを書きたいと思います。

平日の午前中は、政治・経済・外交についてのレクチャーを受けました。すべて英語でなされるレクチャーについていくのはもちろん大変でしたが、なによりも、積極的に発言する外国人生徒に刺激を受けました。静かに聞いていれば良いというような自分の意識を変えていかなければならないと感じました。

午後や夕食後は、様々なアクティビティが用意されていたり、キャンパス内で買い物をしたりするフリータイムとなっていました。その中で最も印象的だったのが、フリータイムの際に、研修を通して仲良くなった現地からの参加者に、リッチモンドという地元の町を案内してもらったことです。カナダという国の雰囲気に触れられ、また一層彼らとの仲が深まりました。

私は、この研修を通して、もっと自分が積極的にならなければならぬと感じました。レクチャーの時もそうですが、フリータイムやアクティビティの時も、自分から積極的に働きかけないと何も始まりません。自分について考え直すことができた、実りある研修でした。
(高2・女子生徒)

感想 2.

私にとって今回の UBC 研修は事前研修、現地研修ともに有意義なものだった。私がこの研修に参加しようと思ったきっかけは英語の苦手意識をなくしたい、観光地ではない海外を経験してみたいというものだったが、結果としてそれ以上のものが得られた。

事前研修は英語だけに触れる機会を定期的にもつという点で役に立った。それまで英語を積極的に勉強してこなかった私にとっては苦勞の多いものだったが、英語への苦手意識が事前研修で少なからず薄れたと思う。特にスピーキングやライティングの練習を通して、自分の意見を英語で表現する力や、英語でのコミュニケーション力が自然と養われた。

現地では英語についていけず最初は不安になったが、勇気をもって会話してみると、意外と正しくない英語でも通じるし、一部が聞き取れなくても会話は成立した。本来はネイティブについていけるだけの英語力があればいいのだが、それよりも話しかける勇気とコミュニケーション力の方がまずは必要なのだと実感した二週間だった。今回の研修で一緒に学んだ仲間や現地で会った人は積極的な人ばかりで、刺激にもなった。(高2・男子生徒)

感想 3.

私は高 3 の夏にこの研修に参加しました。大事な受験期に二週間、外国へ行くことには不安がありましたが、とても実りの多い旅になりました。

半年以上にわたる事前研修も有意義なものでした。英語のクラスでは TOEFL 対策としてタイピングやスピーキングの練習を行いました。私は大学の AO 入試で TOEFL のスコアが必要だったので、この授業を直接受験と結びつけることができました。また、論文の書き方やプレゼンの基本は、大学へ進学し社会人になってからも役に立つと確信しています。

現地では、大学教授から環境についての講義を受けました。実験や課外授業もあり大学の授業の雰囲気を感じ取れました。また、そこで得た知識は大学願書のエッセイや筆記試験に大いに活かされました。高 3 の仲間と朝や午後の自由時間を活用して勉強したのも良い思い出です。何よりも留学の楽しさ、厳しさを学びました。全ては自分次第で、努力と少しの勇気でいくらかでも成長することができます。常に挑戦し続ける精神を得た刺激的な二週間でした。(高 3・女子生徒)

*記載されている情報は2015年度時点のものになります